2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	診療放射線技師等	学科(夜間部)	科目	区	分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	診療画像検査学	П	必修/選	銭択∅	ŊŊ	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対象学年	2年次		学期及7	び曜日	寺限	前期	教室名	第3校舎 801教室
担当教員	山﨑 勝	実務経験とその関連資格	大阪市立た て,診療放 線業務を輸	大学医:射線技 記広く従	学部/ 支師, と事し	付属病院, 洛和会音羽 医学物理士, MRI専門 た.		線科クリニックにおい 門技師として診療放射

《授業科目における学習内容》

X線TVシステムの基本構成を概説。カテーテル診断・治療で用いる循環器X線装置とその周辺機器の概要と管理のありかた。X線装置以外の画像診断装置(IVUS、OCT)の画像診断と管理。他モダリティ(特にCT,MR)との連携。インターベンションに対する画像の評価。 救急時の対応。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験(100%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書「放射線機器学(1)」編:青柳康司

《授業外における学習方法》

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、使用教科書等を用いて事前学修(予習・復習)すること。

《履修に当たっての留意点》

X線発生装置の基本構成を知ることで、X線が人体にどのように作用するのかをより深く学ぶことができます。また、X線透視 システムの基本構成と様々な検査を知ることで、診療放射線技師としての役割を理解し説明できるようになってください。

	業の 法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	講義	授業を 通じての 到達目標	X線発生装置やX線制御装置などの構成を理解し説明できる。		授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
1 回	我形式	各コマに おける 授業予定	X線装置 I		
第	講義	授業を 通じての 到達目標	高電圧発生装置について理解し説明できる。	極業由にプルス	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
1617	我形式	各コマに おける 授業予定	X線装置Ⅱ		
第	講義	授業を 通じての 到達目標	インバータ式X線高電圧装置の特性について理解し説明できる。	授業中にプリント を配布する	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
١Ğ	莪形式	各コマに おける 授業予定	インバータ式X線高電圧装置		
第	그품 지수 다 됐	授業を 通じての 到達目標	陰極に関する特性である正焦点と副焦点を理解し説明できる。	157 MK -L.)	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
4	莪形式	各コマに おける 授業予定	X線管球	授業中にプリント を配布する	
第	講	授業を 通じての 到達目標	自動露出機構(AEC)の特性を理解し説明できる。		授業終了時に示す課題を実施しておくこと
5	義形式	各コマに おける 授業予定	自動露出機構(AEC)		

	業の法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	講義	授業を 通じての 到達目標	イメージインテンシファイア (I.I.)装置の構成を理解し説明できる。	授業中にプリント	授業終了時に示す課題
6	0 11/2 17		イメージインテンシファイア(I.I.)装置 I	を配布する	を実施しておくこと
第	書 通し		授業を 通じての 到達目標 る。 イメージインテンシファイア(I.I.)装置の特性を理解し説明でき る。		
7 回	我形式	各コマに おける 授業予定	イメージインテンシファイア (I.I.)装置 I I	を配布する	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
第	講	授業を 通じての 到達目標	フラットパネル(FPD)の構成を理解し説明できる。		
8	8 我		フラットパネル(FPD)	授業中にプリントを配布する	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
第	講義	授業を 通じての 到達目標	循環器X線装置とその周辺機器を理解し説明できる。	揺業由にプルル	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
9	形式	各コマに おける 授業予定	循環器X線装置とその周辺機器	を配布する	
第	講	授業を 通じての 到達目標	循環器X線装置と他モダリティ(CT,MR,RI)との連携を理解し説 明できる。	₩ H) > → 11 \ 1	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
10	義形式	各コマに おける 授業予定	循環器X線装置と他モダリティ(CT,MR,RI)との連携 I	授業中にプリントを配布する	
第	講	授業を 通じての 到達目標	循環器X線装置と他モダリティ(CT,MR,RI)との連携を理解し説 明できる。	₩ H) > → 11 \ 1	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
11	義形式	各コマに おける 授業予定	循環器X線装置と他モダリティ(CT,MR,RI)との連携Ⅱ	を配布する	
第	诵じての	授業を 通じての 到達目標	血管内治療(インターベンション)の歴史と現況 救急時の対応を理解し説明できる。	授業中にプリント を配布する	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
12	我形式	各コマに おける 授業予定	血管内治療(インターベンション)の歴史と現況 救急時の対応 I		
第	講	授業を 通じての 到達目標	血管内治療(インターベンション)の歴史と現況 救急時の対応を理解し説明できる。	授業中にプリント	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
13	義形式	各コマに おける 授業予定	血管内治療(インターベンション)の歴史と現況 救急時の対応 II	を配布する	
第	講	授業を 通じての 到達目標	血管拡張術と血管塞栓術 IVUS(血管内超音波)、OCT(光干渉断層法)、ポリグラフを理解し説明できる。	極性)を予けて	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
14	義形式	各コマに おける 授業予定	血管拡張術と血管塞栓術 IVUS(血管内超音波)、OCT(光干 渉断層法)、ポリグラフ I	授業中にプリントを配布する	
第	講美	授業を 通じての 到達目標	血管拡張術と血管塞栓術 IVUS(血管内超音波)、OCT(光干 渉断層法)、ポリグラフを理解し説明できる。	極業由につい.1	極光めて吐いごよ部門
15 回	義形式	各コマに おける 授業予定	血管拡張術と血管塞栓術 IVUS(血管内超音波)、OCT(光干 渉断層法)、ポリグラフ II	授業中にプリントを配布する	授業終了時に示す課題を実施しておくこと

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	診療放射線技師学科(夜間部)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	診療画像検査学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対象学年	2年次	学期及び曜時限	前期	教室名	第3校舎 801教室
担当教員	・ は、 m// 三水 作物と	大阪市立大学医学部代 て,診療放射線技師, 線業務を幅広く従事し			線科クリニックにおい 門技師として診療放射

《授業科目における学習内容》

X線TVシステムの基本構成を概説。カテーテル診断・治療で用いる循環器X線装置とその周辺機器の概要と管理のありかた。X線装置以外の画像診断装置(IVUS、OCT)の画像診断と管理。他モダリティ(特にCT,MR)との連携。インターベンションに対する画像の評価。救急時の対応。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験(100%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書「放射線機器学(1)」編:青柳康司

《授業外における学習方法》

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、使用教科書等を用いて事前学修(予習・復習)すること。

《履修に当たっての留意点》

X線発生装置の基本構成を知ることで、X線が人体にどのように作用するのかをより深く学ぶことができます。また、X線透視システムの基本構成と様々な検査を知ることで、診療放射線技師としての役割を理解し説明できるようになってください。

授第	業の 法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	講義	授業を 通じての 到達目標	冠動脈のインターベンションとその撮影法 不整脈および心不 全のインターベンションとその撮影法を理解し説明できる。		授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	我形式	各コマに おける 授業予定	冠動脈のインターベンションとその撮影法 不整脈および心不 全のインターベンションとその撮影法 I		
第	講義	授業を 通じての 到達目標	冠動脈のインターベンションとその撮影法 不整脈および心不 全のインターベンションとその撮影法を理解し説明できる。	授業中にプリント	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
17	我形式	各コマに おける 授業予定	冠動脈のインターベンションとその撮影法 不整脈および心不 全のインターベンションとその撮影法 II	を配布する	
第	講義	授業を 通じての 到達目標	脳血管のインターベンションとその撮影法を理解し説明できる。		授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
18	我形式	各コマに おける 授業予定	脳血管のインターベンションとその撮影法		
第	講義	授業を 通じての 到達目標	四肢血管のインターベンションとその撮影法を理解し説明できる。	ا د د الله الله الله الله الله الله الله	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
19	我 形 式	各コマに おける 授業予定	四肢血管のインターベンションとその撮影法	授業中にプリント を配布する	
第	講義	授業を 通じての 到達目標	先天性心疾患のインターベンションとその撮影法を理解し説明 できる。		授業終了時に示す課題を実施しておくこと
20 回	莪形式	各コマに おける 授業予定	先天性心疾患のインターベンションとその撮影法		

	業の法			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	講義	授業を 通じての 到達目標	肺動脈疾患のインターベンションとその撮影法を理解し説明で きる。	揺業由にプルノ	授業終了時に示す課題
21 回	我形式	各コマに おける 授業予定	肺動脈疾患のインターベンションとその撮影法 I	を配布する	を実施しておくこと
第	講義	授業を 通じての 到達目標	肺動脈疾患のインターベンションとその撮影法を理解し説明で きる。	授業中にプリント	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
22	彩形式	各コマに おける 授業予定	肺動脈疾患のインターベンションとその撮影法Ⅱ		
第	講義	授業を 通じての 到達目標	SHD(心構造疾患)のインターベンションと撮影法を理解し説明できる。	揺業由にプルル	授業終了時に示す課題 を実施しておくこと
23 回	我形式	各コマに おける 授業予定	SHD(心構造疾患)のインターベンションと撮影法	を配布する	